

平成 19 年度科学研究費補助金実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 研究期間 平成 19 年度 ~ 平成 21 年度
5. 課題番号 1 9 5 2 0 3 7 0
6. 研究課題名 言語コミュニケーションを支える規範と逸脱の認知語用論分析

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	<small>ツガナ オカモト, マサシ</small> 岡本, 雅史	片柳研究所	客員准教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	<small>ツガナ</small>		
	<small>ツガナ</small>		
	<small>ツガナ</small>		
	<small>ツガナ</small>		
	<small>ツガナ</small>		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成19年度は当初の予定通り、(1)言語理解過程における規範性の役割と認知的アセスメントの解明、ならびに(2)規範と逸脱に基づくレトリックの認知語用論的分析、の2つのテーマに即した研究を中心に行い、内外の学会や論文誌でその成果を報告した。

具体的に述べると、(1)に関しては語用論的含意を持つと考えられる発話と字義通りに理解される発話の違いを分析することによって、発話者は何らかの事態を認知し(=認知主体)、聞き手に何らかの情報を伝えるべく言語化し(=情報伝達主体)、その言語化した発話を通して何らかの行為を遂行し聞き手に影響を与える(=行為主体)、という主体性・主観性の3つの次元の存在を明らかにした。そして発話事態に対して各次元に応じた認知的アセスメントを聞き手が用いることによって発話理解がなされることをモデル化し、シネクドキリンクとメトニミーリンクによる字義性と含意の説明を試みた。この成果は京都言語学コロキウム第4回年次大会にて報告され、さらに〈潜在的人称構造〉という独自の説明概念からそれを発展させたモデルとその応用可能性について動的システムの情報論研究会で報告された。

また(2)については、メタファーと直喩の日英の実例の分析をもとに〈意味論的主観性〉と〈語用論的主観性〉という、従来存在しなかった新しい視点による説明を提出した。これは、ポーランドで開催された国際認知言語学会(ICLC2007)で報告され、日本語用論学会の論文集にその詳細な議論が掲載されることとなった。

さらに、共同研究として人工物との円滑なコミュニケーションを実現するための認知モデルの設計にも関わった成果が国際ジャーナル(AI & Society)に採択され、研究代表者が提唱する「認知語用論」研究は工学的分野においても有効であることが示された。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| (1) 認知語用論 | (2) 語用論的主観性 | (3) 潜在的人称構造 |
| (4) シネクドキリンク | (5) メトニミーリンク | (6) レトリック |
| (7) | (8) | (裏面に続く) |

11. 研究発表（平成19年度の研究成果）

【雑誌論文】計（2）件

著者名	論文標題			
岡本雅史	比喩表現における意味論的主観性と語用論的主観性			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
日本語用論学会 第9回大会発表論文集	無	第2号	2007	9-16

著者名	論文標題			
Yong Xu	A Two-layered Approach to Communicative Artifacts			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
AI & Society: Journal of Human-Centred System	有	Vol.22, No. 2	2017	185-196

【学会発表】計（3）件

発表者名	発表標題	
Masashi Okamoto	Pragmatic Subjectivity in Metaphors and Similes	
学会等名	発表年月日	発表場所
10th International Cognitive Linguistics Conference	2007.7.18.	AGH University of Science and Technology, Krakow, Poland

発表者名	発表標題	
岡本雅史	シネクドキリンクとメトニミーリンク：字義性と含意の認知語用論的再考	
学会等名	発表年月日	発表場所
京都言語学コロキウム第4回年次大会 (KLCAM-4)	2007.8.25.	京都大学 芝蘭会館, 京都

発表者名	発表標題	
岡本雅史	語りにおいて生起し，その理解を支える潜在的人称構造について	
学会等名	発表年月日	発表場所
動的システムの情報論7：自然言語のダイナミズム	2007.12.1.	統計数理研究所，東京

【図書】計（ ）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】計（ ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取得】計（ ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--